

法文学部

●学部教育理念と教育目的

法文学部は、人文・社会科学系の総合的教育研究組織として、少人数教育を基礎とするきめ細かな指導によって専門的知識・技法を教授し、より高度で創造的な問題発見・解決能力を養います。それによって、人文・社会科学的素養に立脚しつつ、幅広い教養と総合的な判断力を備え、社会的役割を自覚し主体的に行動できる人材を育成することを目標とします。また、夜間主コース開設 20 余年の実績を踏まえて、社会人のための生涯教育をより充実させ、よりいっそう社会に開かれた教育研究組織であることを目標とします。

●学部のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、卒業時に必ず身につける能力)

<知識・理解>

社会科学または人文科学の基本的な知識を習得している。

<思考・判断>

社会科学または人文科学の特定の学問領域において、的確な考察および判断ができる。

<関心・意欲>

社会科学または人文科学の知識を社会における実践力へと高めることができる。

<態度>

文化や社会の担い手としての自覚を持ち、責任を果たすことができる。

<技能・表現>

社会で活躍できる的確なコミュニケーション能力を身につけている。

●学部のアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

<知識・理解>

1. 高等学校で学習する国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科などについて、高等学校卒業相当の知識を有している。

<思考・判断>

2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

＜関心・意欲・態度＞

3. 人間および人間の創り出した文化や現実の社会から提起される諸問題に興味関心を持ち、それを大学における勉学を通じて追求したいと考えている。

＜技能・表現＞

4. 所与の問題について、自分の考えを日本語でわかりやすく表現できる。